

日本血管外科学会 2024 年度国際活動報告

JSVS international activity report 2024-2025



日本血管外科学会
Japanese Society for Vascular Surgery

日本血管外科学会 2024 年度 国際活動報告

JSVS international activity report 2024-2025

はじめに

われわれ日本血管外科学会は近年国際活動を基本運営方針の一つとして重視してきました。以前より日本血管外科学会も参加していた、World Federation of Vascular Societies (WFVS) の活動が 2019 年に刷新され、より一層世界の血管外科学会が一体となりこの領域を盛り上げていこう、という機運が盛り上がりました。これに呼応して日本血管外科も東 信良理事長の指揮の元、積極的に国際活動に参加する方向性となりました。しかし折しも突然訪れたコロナ禍で、対面での学会、研修会ができなくなったため、日本血管外科学会は若手教育、インセンティブの向上に苦慮し、熟考のすえ Distal bypass Olympic (のちに Distal bypass Competition に改名) を開催することにしました。これは On-line での simulation training kit を用いた血管吻合のバーチャル競技会で、若手医師がコロナ禍のなか楽しく、日々のトレーニングの成果を競い、かつ一流の外科医にコメントをいただけるイベントとして、学会内では非常な盛り上がりを見せました。この活動が WFVS の理事や各国学会重鎮にも認められ、日本血管外科学会のステータスが向上し、その実力および組織力が再評価されてきたのです。その後も WFVS 主導の世界の各学会での学会員の講演、アメリカ、ヨーロッパの主要学会での本学会優秀演題発表者派遣、International Distal Bypass Competition 開催など国際活動を続けており、これらを通じて、我々の活動が国民の医療の向上、また学会員の将来を見据えた戦略として非常に有用であることが世界に認められてきています。

現在も WFVS や各国血管外科学会から、日本血管外科学会からの講演者推薦や派遣の要望が数多く寄せられており、理事や国際委員はもとより、若手外科医の中からも優秀な研究の発表者を派遣しています。これらの国際活動の実績や成果は後世にきちんとした形で伝えていかなければならず、また会員や関係各位への実績報告の責任もあると考え、この報告書を編纂するに至りました。

今回は国際委員会を中心として 2024 年度の国際活動の実績をまとめ、理事会での承認を経て、公開することになりましたが、今後も年度ごとの活動報告を続けていく所存であります。

日本血管外科学会

理事長 東 信良 (旭川医科大学 血管外科)

国際委員長 駒井 宏好 (関西医科大学総合医療センター 血管外科)

1. 国際イベント開催

① 第52回日本血管外科学会における日本－台湾血管外科学会 合同シンポジウム (2024/5/30) 別府

かねてから交流のある台湾血管外科学会からの強いご要望があり、宮本伸二会長のご協力の元、第52回日本血管外科学会で日本－台湾血管外科学会合同シンポジウムを企画した。テーマは「若手血管外科医の教育：Education and Training of Young Vascular Surgeons」とし、日台の3名ずつの講演が行われた。非常に友好的に、かつ活発な討論が行われ、台湾血管外科医からも高い称賛いただいた。台湾では熱心な若手血管外科医が出てきたが、指導者がまだまだ不足しており、日本血管外科学会の協力が熱望されている。今後も当学会での交流、および台湾血管外科学会総会への派遣、ワークショップへの参加など、協力関係を維持していきたい。



② 第13回日韓血管外科学会開催 (2024/6/29-30) 川崎

関西医大の駒井宏好会長のもと、日韓血管外科学会 2024 を開催した。単独開催であり、前回から1年後の不定期開催（通常は2年ごと）であったので参加者数を憂慮していたが、韓国からの50名を含む総勢130名の参加者を集め、熱心な討論が行われた。初日の懇親会も、総勢90名が参加し、大いに盛り上がった。日本血管外科学会若手医師の会である JAST の全面的な支援のおかげと感謝している。



③ 1st International Distal Bypass Workshop (2024/7/27-28) 東京

第一回 International Distal Bypass Workshop が 2024/7/27-28 に羽田の Johnson & Johnson Institute で行われた。これは日本血管外科学会が主催し、以前からの Distal Bypass Competition, Distal Bypass Workshop in Asia の経験を活かし、技術だけではなく治療戦略や患者管理なども含めた、distal bypass 施行のコツを伝授するワークショップである。参加者は 30 名（イギリス 1 名、オーストラリア 2 名、ニュージーランド 1 名、インド 2 名、韓国 6 名、シンガポール 5 名、中国 6 名、台湾 5 名、ベトナム 1 名、フィリピン 1 名）を数え、年齢層は 32-54 歳であり、ゲスト指導者として欧米での同領域のスペシャリストである、Dr. Werner Lang, Dr. Michael Conte をお招きして指導、講演をしていただいた。また、JAST および WFVS 活動の一環である Global Vascular Companionship の援助の元、Fiji 人血管外科医を 1 名招待し参加いただいた。血管外科の未だ十分な教育のされない地域への貢献ができたと自負している。



● プログラム：

Program							
Date	Time	Lecture/ Lab works	Duration	Lecturer candidate			
27-Jul	10:00~	Opening remarks	10min	Hiroyoshi Komai			
Chair	Hiroyoshi Komai						
	10:10~	What we need to learn for successful distal bypass surgery	30 min	Nobuyoshi Azuma			
Chair	Katsuyuki Hoshina						
	10:40~	Preoperative planning and evaluation of vein materials for distal bypass	20 min	Hiroyoshi Komai			
	11:00~	Selection and exposure of distal targets	20 min	Shinsuke Mii			
	11:30~	Tips of anastomosis technique of distal bypass	20 min	Nobuyoshi Azuma			
Chair	Nobuyoshi Azuma						
	11:50~	Luncheon by Japan Gore: Is artificial graft is an option in patients with poor GSV	15 min	Hieaki Obara			
	12:05~	Coffee break					
Chair	Nobuyoshi Azuma						
	12:15~	Special Lecture: Pathophysiological change of vein graft and optimal goal of distal bypass	40min	Micael Conte			
Chair	Hideaki Obara						
	13:00~	1 min self-introduction by all participants		Hideaki Obara			
	13:40~	Dry Lab 1 using TAMATEBAKO		Hideaki Obara			
Chair	Hideaki Obara						
	15:40~	Evening seminar by LeMaire Handling the vein material:Reversed, Non-reversed, and In-situ fashion	50 min	Shinsuke Kikuchi			
	16:30~	Management and follow up after surgery	20 min	Akio Kodama			
Chair	Hiroyoshi Komai						
	16:50~	Round table discussion Case presentation 1 Case presentation 2		Obara Kokubo			
	18:30~	Dinner					
28-Jul							
	8:40~	Group A: Off-the-Job training for distal bypass using simulators		Katsuyuki Hoshina	Komai	Obara	Miyake
	8:40~	Group B: Animal Lab		Akio Kodama	Mii	Kokubo	Kikuchi
Chair	Shinsuke Mii						
	11:40~	Luncheon by Japan BXI Graft flow measurement as a completion test Troubleshooting during distal bypass surgery	50 min	Keisuke Miyake Werner Lang			
	12:40~	Group A: Animal Lab		Shinsuke Mii	Kodama	Kokubo	Kikuchi
	12:40~	Group B: Off-the-Job training for distal bypass using simulators		Katsuyuki Hoshina	Komai	Obara	Miyake
	15:50~	Certificate of completion award	10min	Hideaki Obara			
	16:05~	Closing remarks	5min				

● 参加者アンケート：

主な意見

- ① (ほとんどの意見) 非常に有意義だった。勉強になった。技術の高い指導者に教えてもらえてよかった。
- ② もっと Case discussion, Dry and Wet Labo の時間をとって欲しい。
- ③ 会場の公共交通の便が悪かった。

今後も定期的を開催し、各国の若手血管外科医の教育、モチベーション向上に寄与していきたいと考える。

2. 国際教育活動

① WFVS home page へのリソースの提供

WFVS の活動の一つとして、特に若手医師への情報発信を HP で行っており、各 Society からそのためのリソースを募っている。

日本血管外科学会からも JAST メンバーとも相談し、以下のリソースを提供した。

1. 過去の Distal Bypass Competition の YouTube 動画
2. JCLIMB データベースから開発された CLTI 治療 Risk Calculator App

参考) WFVS Resource ページ <https://worldfvs.org/wfvs-resources-page/>

② Short review articles の雑誌投稿

WFVS 活動の一環として「Rare vascular disease」の short review を分担執筆し、Journal of Vascular Surgery Vascular Incites 誌に発表することとなった。日本血管外科学会からは、慶應大・尾原秀明先生が「Popliteal artery entrapment syndrome」、川崎医大・渡部芳子先生が「Thromboangiitis obliterans」、関西医大・駒井宏好先生が「Deep femoral artery aneurysm」に関する review を執筆し掲載された。世界中の血管外科医に有用な日本発の情報を共有する役割が果たせたと考える。

RESEARCH ARTICLE · Articles in Press, 100186, January 17, 2025 · Open Access

[Download Full Issue](#)

A short review of popliteal artery entrapment syndrome

[Hideaki Obara](#)¹ · [Prem C. Gupta](#)² · [Lewis Levien](#)³ · [Pradeep Mistry](#)⁴ · [Venkatesh Bollineni](#)⁵ · [Palma M. Shaw](#)⁶



RESEARCH ARTICLE · Volume 3, 100162, 2025 · Open Access

[Download Full Issue](#)

Short review of diagnosis and revascularization for thromboangiitis obliterans

[Yoshiko Watanabe](#), PhD, MD^a · [Natarajan Sekar](#), MS, MNAMS, MCh, FICS, FRCS, DSc^b · [Tapish Sahu](#), MBBS, DNB^c · ... · [Prabhu Premkumar](#)^e · [Palma M. Shaw](#), MD, MBA, FACS, RPVI^f · [Prem Chand Gupta](#), MBBS, MS^g... [Show more](#)

RESEARCH ARTICLE · Volume 3, 100182, 2025 · Open Access

[Download Full Issue](#)

True deep femoral artery aneurysms: Case series and review of the literature

[Hiroyoshi Komai](#), MD, PhD^a · [Nobuko Yamamoto](#), MD, PhD^a · [Prem C. Gupta](#), MBBS, MS^b · [Palma M. Shaw](#), MD, FACS, RPVI^c

3. 各国学会、国際会議への派遣

① LIVE symposium 2024 (2024/5/16-18) ロードス島 (ギリシア)

ギリシア血管外科学会の Prof. Giannoukas から直々に当学会に、彼らの行っている LIVE symposium での JSVS セッション開催の依頼が来た。本年は関西医大・駒井、東大・保科、慶應大・尾原の3理事を派遣してそれぞれ2-3演題ずつの講演を行った。ヨーロッパでは歴史のある国際的な学会で、素晴らしいおもてなしもしていただいた。日本からの発表にはどれも多くの質問がされ、活発な議論が行われた。

12:00-12:45 JSVS @ LIVE
Moderators: Hiroyoshi Komai (Japan), Athanasios Giannoukas (Greece)

12:00-12:10 Strategy of CLTI treatment in Japan; Now and Future
Hiroyoshi Komai (Japan)
12:10-12:20 Type 2 endoleak should be treated, but when?
Hideaki Obara (Japan)
12:20-12:30 Treatment and evidences of visceral artery aneurysms
Katsuyuki Hoshina (Japan)
12:30-12:45 Discussion



② SVS 2024 (2024/6/19-22) シカゴ (USA)

WFVS よりアメリカ血管外科学会 (SVS) における WFVS セッションに日本血管外科からも演題を、との依頼があり、国際委員会にて東京大学・保科先生にご依頼し、ご発表いただいた。また例年通り日本血管外科学会優秀演題に選出された、済生会宇都宮病院 心臓血管外科・亀田 柚妃花先生にご発表いただいた。

World Federation of Vascular Societies Educational Session
Bright and Dark Sides of AFX: Type III Endoleak Issue

Wednesday, June 19, 2024 7:24 AM – 7:31 AM CT

Location: West Building, Level 1, W184bc

Speaker(s)



Katsuyuki Hoshina, MD, PhD (he/him/his)
Division of Vascular Surgery, University of Tokyo
Tokyo, Japan

International Chapter Forum Educational Session

The importance of evaluation of intimal flap mobility in determining the indication for preemptive TEVAR for type B aortic dissection - Report from a multicenter trial

Thursday, June 20, 2024 7:05 AM – 7:15 AM CT

Location: West Building, Level 1, W184bc

Speaker(s)



Yuika Kameda, MD (she/her/hers)
Utsunomiya, Tochigi, Japan

SVS・VAM 2024 参加報告

SVS Vascular Annual Meeting 2024 参加報告

済生会宇都宮病院心臓血管外科 亀田祐紀花

この度、私は第52回日本血管外科学会学術総会で、「B型大動脈解離の Preemptive TEVAR の適応決定に flap の可動性の評価が重要である〜多施設共同研究からの報告〜」と題した演題を発表し、光栄にも最優秀演題賞を受賞した副賞として、米国血管外科学会 (SVS) の Vascular Annual Meeting (VAM) 2024 で発表する機会をいただきましたので、以下にご報告いたします。

VAM 2024は6/18-21の4日間、イリノイ州シカゴにある McCormick Place で開催されました。シカゴはニューヨーク、ロサンゼルスに次ぐ、アメリカ第3の大都市ですが、近代高層ビルが立ち並ぶ一方で五大湖のひとつミシガン湖にも面しており、自然にも恵まれた美しい街でした。シカゴ美術館が有名ですが、街中の至る所にアートのスポットがあり、徒歩だけでもシカゴを堪能できました。

さて、そんな魅力溢れるシカゴでの VAM 開催。今回は International Chapter Forum という、SVS の国際支部の代表者が発表するセッションで、10分間の口演発表を行いました。日本の学術総会では同時並行で複数の会場で発表が行われることが多いですが、VAM では同時同様の発表が少なく、一つの会場に多くの参加者が集まり、活発なディスカッションが繰り広げられていました。私の発表にも複数の質問をいただき、純ジャパニーズの自分が持つ限りの英語で何とか対応しましたが、国際学会の場で自分の演題に興味を持って質問をいただけたことに対して嬉しさを感じました。このような経験が今後の学術活動の糧になると感じ、私の VAM での発表を悔えしました。

学会は非常に活況を呈しており、企業展示ブースでは日本に導入されていない新しいデバイスを実際に触れる機会もありました。大血管領域のセッションでは動脈瘤の fenestrated/branch ステントグラフト治療に関連した演題が多く、自作開窓デバイスや各企業製 fenestrated/branch の成績が注目されていました。メイン会場に集まる血管外科医の熱意を通して、血管外科分野の最新の研究や注目されているトピックを肌で感じることができました。また、学会で発表している女性血管外科医が多いことも印象的でした。とくに私が発表したセッションの座長は7名とも女性で、同じセッションでは各国を代表して多くの女性血管外科医が発表していました。日本でも年々女性医師の割合は増加していますが、心臓血管外科領



域では未だ1割にも満たないのが現状です。近い将来、日本の学術集会でもこのような光景が見られる日が来ると信じて、いち女性心臓血管外科医として自分も走り続けたいという思いを強くしました。

最後になりますが、このような大変貴重な機会をいただいたのは JSVS の運営に関わる先生方および会員の皆様、日々ご指導をいただいている志水教授、そして横山先生をはじめ当院スタッフの皆様であり、皆様に改めてこの場を借りて深く感謝申し上げます。

以上、SVS・VAM の参加報告とさせていただきます。



③ ESVS 2024 (2024/9/24-27) クラクフ (ポーランド)

本年のヨーロッパ血管外科学会 (ESVS) では日本からは優秀演題の九州医療センター血管外科・松原裕先生が学会推薦で発表された。それ以外にも日本人発表者は 20 名を数え、いずれの発表も高い評価を得た。また若手組織である EVST に JAST が参画して「PAD triathlon」が開催され、日本からも Judge や選手として参加した。駒井宏好先生が ESVS からの依頼で Fast Truck Session の Judge として参加した。

日本血管外科学会が ESVS との契約を結ぶことによって、ESVS 年会費が安くなり、日本人がより気軽に ESVS 会員となって国際活動ができるようになると、2023 年から National Societies の一員となっている。それを契機に日本人の ESVS 会員が 40 名を超えたため ESVS council member も出すことが許可され、駒井委員長が参加している。今回の Council meeting では、今回選挙にて決定した次期 Secretary General の Dr. Robert Hinchliffe や次々期会長の Dr. Nabil Chakfé と懇談した。ESVS でも日本と同様の問題を抱えており、若手医師のリクルート、Interventionist との棲み分けや女性医師確保などの議論がなされていた。これとは別の National Society Meeting にも駒井委員長が参加し、各国の現状や問題点を議論した。いずれも交流という意味では有意義な会議であり、各国の血管外科学会でも同様の問題点を抱えていることを再認識できた。次回 Istanbul での ESVS 総会についての会議には駒井委員長と東理事長が参加要請され、アジアとヨーロッパの血管外科のコラボレーションについて協力していくことが話し合われた。ESVS はアジアの血管外科の中心的存在として日本血管外科学会を高く評価していただいていることが理解できた。

ESVS 38th Annual Meeting

24-27 September 2024



**Kraków,
Poland**

Horizontal Vertical List
< Back

- Event Times (CEST / GMT+2)
- Local Times (JST / GMT+9)
- Login
- Session Groups

Japan: Sciatic nerve atrophy is associated with limb amputation free survival in CLTI patients

Speaker: Yutaka Matsubara (Fukuoka, Japan)

In sessions

Scientific Session
Tuesday, September 24, 13:00 – 15:00 | CHAMBER HALL - S3 - B

Best abstracts of young vascular surgeons from national societies



[Home](#)
[About Us](#)
[Contact Us](#)

Horizontal

Vertical

List

 help

Event Times (CEST / GMT+2)

Local Times (JST / GMT+9)

Login

Session Groups

Japan: Sciatic nerve atrophy is associated with limb amputation free survival in CLTI patients

In sessions

Scientific Session

Tuesday, September 24, 13:00 – 15:00 | CHAMBER HALL - S3 - B

Best abstracts of young vascular surgeons from national societies



■松原先生 学会参加報告■

ESVS 38th annual meeting参加報告
九州医療センター 血管外科 松原裕

2024年9月末、記録的な残暑が続く福岡を発ち、約24時間かけてポーランドの旧都クラクフに到着。今朝の気温は1桁、半袖で来てしまったことを後悔したのは、秋の装いへと変化を遂げた草木が広がり、日本のそれと同様である。クラクフの街はほどよい都会で、高層ビルは目立たない。中心部には世界遺産であるヴァヴェル城や聖マリア聖堂が立ち並ぶ旧市街が残り、観光名所となっている。また、負の遺産として世界遺産に登録されたアウシュビッツ強制収容所も近郊にあり、華やかな旧都の町並みとあわせて当時の東欧の社会事情を感じることができる。

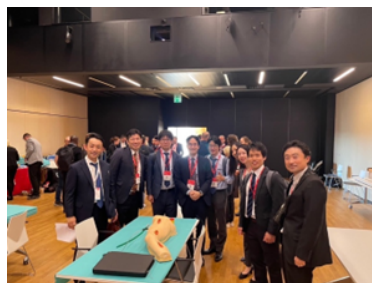
チェックインまで時間がかかりある。バスターミナルに向かうと、発車直前のアウシュビッツ行きバスを発見し飛び乗った。残念ながらスーツケース片手に館内に入ることはできず、柵の外から周囲を散策して見学した。今となっては、アウシュビッツ周辺は普通の住宅地であり、学校や商店など日常的な生活が送られている。帰りのチケット購入はポーランド語対応であり、わからず戸惑っている、と、地元の中学生くらいの女の子が助けてくれた。ポーランドの若者には英語が通じるらしい。

学会会場は旧市街から歩いて10分くらいの所にある。会場の規模は今年の日本血管外科学会が開催された別府ビーコンプラザよりもコンパクトだ。その中に欧州中の血管外科医が集結するのだから、熱気と密度がすごい。シンポジウムが中心、ハンズオン形式のワークショップが多い、ポスターは掲示がなくディスプレイを用いたデジタル発表が1箇所あるのみという点が日本と異なる。採択率が低く、発表の機会が得られるだけで光栄であるというのも納得がいく。競争社会で勝ち残った選ばれし研究のみが採択されるだけあって、発表内容はRCTや前向き観察研究ばかりであった。日本のように競争が少なく、ある意味共産主義な環境では、国際競争で勝てる研究者は育たないだろうと感じた。

私は今回、第52回日本血管外科学会で発表した研究が最優秀演題に採択され、ESVSのBest abstract sessionで発表する機会を頂いた。英語での発表であったが、英語を母国語としない欧州での発表であったため、各国の訛りを拝聴でき、私もJapanese Englishを披露した。発表した研究内容は、坐骨神経の萎縮がCLTI患者の肢予後不良因子であるという、後ろ向き研究だ。質疑応答では思いのほか多くの質問を頂き、座長からは「坐骨神経なんて聞いたことないけど、これまでに報告はあるのか？」と聞かれたが、「ない。当院の麻酔科医が坐骨神経ブロック中にCLTI患者の坐骨神経は細いと言っていた。」と答えた。素晴らしいアイデアを下さった麻酔科の先生に感謝だ。同じセッションで発表された他の研究はRCTや多施設前向きレジストリを用いた研究であり、後ろ向き研究を発表したことに恥ずかしさを感じた。欧米では臨床での疑問はRCTに問うシステムが構築されているようだ。日本で実現するには、研究費の獲得や情報セキュリティ、煩雑な倫理委員会、統計専門家の雇用など課題が山積みである。

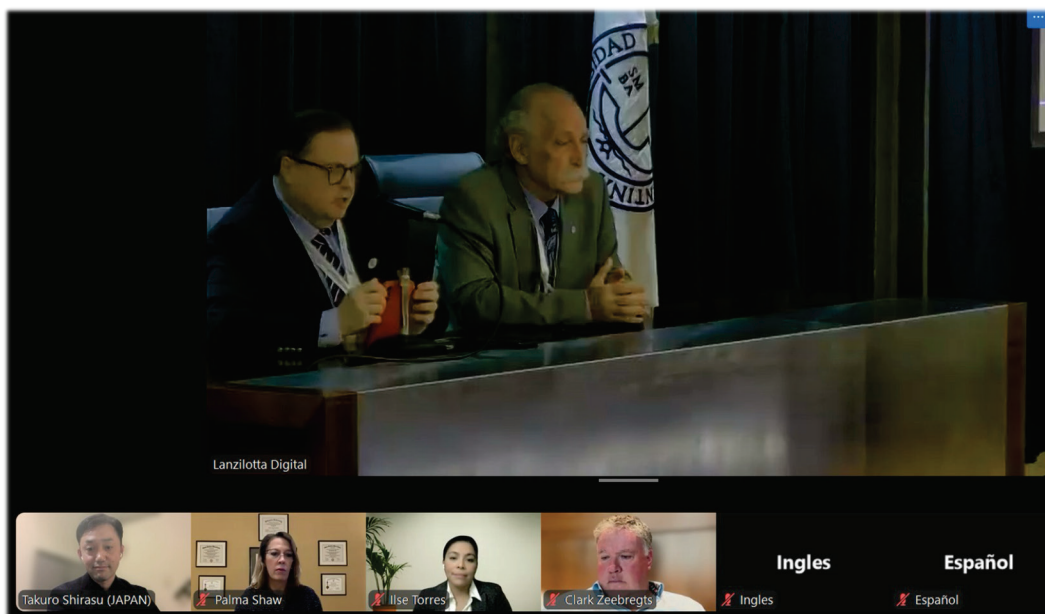
自分の発表を終えた後は、ESVSの若者の会であるEVST主催のPADトライアスロンを見学した。欧州の若手血管外科医が手術、EVT、知識を競う大会だ。日本でもJAST主催のPADトライアスロンを開催し、優勝者をEVSTに派遣するなど交流を深めている。ぜひJASTホームページ(<https://jsvs-jast.com/>)、Instagram(https://www.instagram.com/Jast_vascular_surgery/)をフォローして頂きたい。今後は研究面でも国際交流を深めることで、研究の質や国際学会での存在感を高めていくことに期待したい。

このような機会を頂いた日本血管外科学会のみならず、並びに日頃から御指導賜り快く海外へ送り出して下さった九州医療センター血管外科の小野原先生と古山先生に厚く御礼申し上げますと同時に、益々の発展を祈念して報告の結びとさせていただきます。



④ ALCVA・WFVS セッション (2024/10/31-11/1) ブエノスアイレス (アルゼンチン)

ラテンアメリカ血管外科学会 (ALCVA) における WFVS セッションに発表要請があり、東京大学の白須拓郎先生に「Management of type 2 endoleak to improve the long-term outcomes after endovascular aneurysm repair」の演題を Web 発表いただいた。



⑤ VEITH symposium WFVS セッション (2024/11/21) ニューヨーク

血管外科領域の主要な国際学会である VEITH symposium の WFVS セッションには日本血管外科学会から名古屋大学・坂野比呂志先生と川崎医科大学・渡部芳子先生にご発表いただいた。WFVS セッションではあまり聴衆は多くなかったようで、発表いただいた先生がたには遠路申し訳なく思うところであるが、VEITH での発表という実績は残せ、海外への日本血管外科のアピールは果たせたものと考ええる。今後渡航費用の助成などを学会として考えていかなければならない。



2024 BOARD OF DIRECTORS
PRESIDENT
Prem Chand Gupta, MD

Vice President
Pamela Shaw, MD

Secretary General
Palma Shaw, MD

Secretary General Elect
Juan Esteban Padini, MD

Past President
Philippe Kolh, MD

BAHCEMIA OFFICE
9400 Mt. Higgins Rd., Ste 315
Houston, TX 77061
313.384.2201
www.bahcemia.org
info@bahcemia.org

WFVS Session at VEITH Symposium 2024

November 21, 2024

1:00 – 2:30 pm

New York Hilton Midtown Hotel

Murray Hill Suite, 2nd Floor

Moderators: Palma Shaw, MD, Wei Zhou, MD, and Enrico Ascher, MD

1:00 – 1:02 pm Introduction:
Palma Shaw, MD, Secretary General of WFVS

1:03 – 1:08 pm
ESVS 2024 Guidelines on the Management of Asymptomatic Lower Limb Peripheral Arterial Disease and Intermittent Claudication: Key Element
Philippe Kolh, MD (ESVS)

1:09-1:14 pm
Pregnancy-Related Aortic Dissection: Insights and Unresolved Questions
Rana Adil, MD (SVS)

1:15-1:20 pm
Direct Repair of Subclavian Artery in Arterial TOS: Video Presentation
Prem Chand Gupta, MD (VSI)

1:21 – 1:26 pm
Experience in Treatment of Thoracic Aortic Disease with Branched Prosthesis
Juan Esteban Padini, MD (ALCVA)

1:27 – 1:32 pm
Non-Invasive Assessment for PAD in Japan
Yoshiko Watanabe, MD (JSVS)

1:33 – 1:38 pm
Strengths and Complexities of a Vascular Training Program: The ANZSVS Perspective
Mark Jackson, MD (ANZSVS)

1:39 – 1:44 pm
Central Vein Obstruction in Hemodialysis Patients
Chris Tsoletis, MD (VASSA)

1:45 – 1:51 pm
Conservatively Managed Acute Ischemia of Upper Limb: Our Experience of 30 Patients, An Observational Study
Prem Chand Gupta, MD (VSI)

1:52 – 1:57 pm
Vulnerable Thrombus as a Cause of Spinal Cord Injury after Thoracic Endovascular Aortic Repair-Tokai Multicenter Study
Hiroshi Imano, MD, PhD (JSVS)

1:58 – 2:03 pm
Management of Traumatic Thoracic Aortic Injury: Real-World Experience
Nasim Hedayati, MD (SVS)

2:05 – 2:20 pm
Q&A

■渡部先生 学会参加報告■

VEITHsymposium・WFVSセッションに参加して
川崎医科大学 総合臨床医学 渡部芳子

2024年11月19日から11月22日まで、米国ニューヨークのヒルトンミッドタウンホテルで行われたVEITHsymposium・WFVSセッションに参加しました。私は日本国内の旅行は大好きで、もちろん海外へも行ってみたいのですが、第一に飛行機を好まず、そのため海外は留学経験もなく会話も不得手で、国際学会への参加は多いとは言えない質です。この度は、日本血管外科学会理事長の東信良先生から、WFVSセッションのプログラムをお世話下さったUPSTATE Medical Centerの外科教授Palma Shaw先生からの「女性に参加して欲しい」とのご依頼を受けました。大分で開催された第52回日本血管外科学会の会場でのことで、東先生から伺ったのちに、来日なさっていたShaw先生から直接、旅費は出せないのだけれどよろしくと言われ、決心しました。大変な円安の時期でありインターネットで航空券やホテルの値段に驚愕し、その時点では他にご参加される先生が不明でなんとも心細かったのですが、発表内容は自由でよく6分間と短かったのは後押しで、「こんなことでもないとニューヨークなど一生行かない、きつと行ったら素晴らしい」と心を奮い立たせました。

発表タイトルは、「Non-invasive assessment for PAD in Japan」としました。日本の先生方はドプラ聴診器でABI測定をなさることはさほど多くないだろうと勝手に思っておりますが、海外では4カフ式の自動ABI測定器は普及していません。また、皮膚循環は経費酸素分圧 (tcPO2) を用いて評価することが多く、皮膚灌流圧 (SPP) はマイナーです。そこで、日本では日常的であるものの和製で海外での認知度はまだまだ乏しい、足関節上腕血圧比 (ABI) 測定器と、皮膚灌流圧 (SPP) 測定器の特性や使いやすさ、それに加えて日本血管外科学会が作成した、スマホで出来るWiFi分類計算アプリを紹介することにしました。既にご使用経験も多いかと存じますが、このアプリでは虚血グレードとして、tcPO2の代用としてSPPを入力できるのが特徴です。質問時間が設けられていませんでしたが、セッション全体が終了したのちに、聴講されていた先生から機器の購入を検討したいので資料をもらえないかとお声がけがあり、帰国してからメールでご紹介しました。他の演題で特に興味深かったのは、米国からの、妊娠中の大動脈解離の取り扱いについてフローチャートを作成した取り組みでした。私自身は経験がないケースですが、チャートが必要なほど症例数があることに驚き、日本ではどうなのか或いは人種による差異なのかと考えました。他の演題も、スポンサーの展示の種類と華やかさも、日本とは傾向が異なり、やはり国際学会には時々でも参加できればと感じました。



(写真は、名古屋大学 坂野比呂志先生からいただきました。)

なにしろ初めてのニューヨークで、正直もっと賑やかかと身構えていましたが、東京よりも全体に巨大で古い建造物が多い印象で、新宿や渋谷の方が遥かにガチャガチャしているように感じました。道路の中央分離帯のような部分で芸能事が繰り返されていて、劇場だけでなく、なるほど役者や芸人が目指す街だと実感しました。学会場の外でも沢山の楽しみがありました。美術館や博物館は大きすぎで、流し見が通常のようなのは思惑外でした。夜はブロードウェイのチケット売り場を発見したので、うーんと思いつながら奮発してその日にあった券を満喫しました。一人旅ならではの気ままさでしたが、やはり仲間と一緒にの楽しさも恋しく、次回もしあれば、是非そのようにと思います。

■坂野先生 学会参加報告■

VEITH symposium 2024に参加して
名古屋大学大学院医学系研究科 血管外科学
坂野比呂志

本年11月19日から23日米国ニューヨークで開催されたVEITH symposium 2024に参加した。本年5回目の海外出張だった。別府での第52回日本血管外科学会が終了して間もない6月に駒井教授から打診を頂いた。さすがにお金のことも頭によがり、一瞬“グッ”となったが、快く引き受けさせていただいた。初めてのVEITH参加である。フランス留学時代も同僚がこぞって参加しており、すごく面白いし、なんで参加しないんだ？ぐらいの感じで言われていたので、いつかは参加したいとは思っていた。ただ年1回のESVSでの発表をベースにしてそれ以上の海外出張も厳しく、断念していた。最初に結論を言うと、皆さん、できるだけ参加すべきである。大変面白いし、勉強になる。とはいえお金はかかりかかってしまうので、演題発表も行なつて、、、（いくらかデイスカウトがある）と言うことにはなるが。

さて、今回は当然名古屋からの他の参加者はおらず、かつてはもっと多かったらしいが、円安、物価の高騰などの影響もあるのか日本人の参加も非常に少なかった。全員発表者で、毎年発表されている古森先生、倉谷先生、藤村先生、そして一緒にセッションで発表された渡部先生、唯一の若手(?)寺井先生だけだったはずである(東先生と循環器内科の飯田先生がWebで参加されていたようである)。藤村先生とは数回食事を一緒にしたが、基本的には一人であった。皆さんご存知のように、米国東海岸への出張は時差ボケが本当に辛い。朝2時ごろに目が覚め、そこからはどうやっても眠れず、幸いVEITHは朝の開始も早い(6時半過ぎ!)ので、朝一からバッチリ参加して、そしてランチを食べ終わる頃にはもうぐったり。演題が非常に面白いことに加え、観光する元気もなくなっていることもあり、夕方までずっと会場で演題を聞いていた。夕食も一人ではどこにも行く元気がなく、ホテルで購入したサンドイッチと缶ビール1本で済ませた。しかしホテル価格ということもあるが、これだけで5,000円である。せめてスーパーマーケットに行くことをお勧めする。

VEITH symposiumは基本的に3会場並列で行われる。どの会場の演題も興味深く、CLTIの発表に後ろ髪を引かれながらやむを得ず大動脈の発表を聞く、という具合である。幸い会場間の行き来はすぐなので、一つ演題を聞いては、隣の会場に移動してまた別のセッションの演題を聞くということが可能である。さらには参加者にはOn-demand libraryへ

のアクセス権が付与されるので、後から見逃した演題のビデオの視聴が可能である。発表はどんなに大御所だろうと基本的に5分間で、演題ごとの質疑応答はなく“ちゃっちゃと”進んでいく上に、endoに限定されず、openも含めて現在、そして近未来の血管外科診療を網羅する内容となっている。高度に学術的というものではないが、それだけに臨床家にとっては非常に勉強になる会である。

私が発表したのはVEITH symposiumの中のWFVS (World Federation of Vascular Societies) セッションである。今回は東海地方の(心臓)血管外科施設からTEVAR後脊髄障害症例のデータを提供していただいたものを解析した研究結果を発表した。VEITHの本セッションではないので、会場も別で、聴衆もそれほど多いとは言えないが、Peter Gloviczkiをはじめ血管外科界の重鎮が参加されており、気を引き締めて発表した。大変興味深い内容であること、より大規模なデータでのさらなる解析結果に期待する、というコメントを頂いた。

最後に、この度は貴重な機会と資金援助を頂き誠にありがとうございました。今後も引き続き、特に若手血管外科医を中心にこのような機会とサポートがあることを切に願っています。そしてその機会を得た方は是非積極的にそれを生かしてください。



写真：発表終了後の会場にて
右から渡部先生、Gupta先生（インド血管外科学会の
president）、古森先生、Gloviczki先生、筆者

⑥ ESVS National Societies Meeting (2025/2/9-10) アムステルダム (オランダ)

クラブでの総会に引き続き、National Societies Meeting が単独でアムステルダムで開かれ、代表として駒井委員長が出席した。前回に引き続き若手医師のリクルートの問題や各国での血管外科教育リソースの偏在などが議論された。リクルートについては学生やレジデントに対し、血管外科を紹介するため学会に招待することや、少人数でのワークショップを開催することを各国で行っていることを聞き、本学会でも応用できるものもあった。リソースについてはアジアや東欧諸国では学会規模が小さく、十分な教育ができないことが話題になっていた。本学会ではリソースは豊富にあるため、今後各国の援助ができるよう努めていかなければならないと感じた。なお、対面で他の委員と交流することは人脈を広げるためには有効で、本学会の活動を理解してもらうための一助となっている。

⑦ WFVS council meeting (2024/4/27, 2024/11/2) Web

WFVS の運営を決める council meeting に、日本血管外科学会からの council member である慶應大・尾原秀明先生、慈恵医大・大木隆生先生が出席した。様々な方針や問題が議論されたが、日本からの運営資金分担拠出を引き続き \$ 5,000 とすること、Global Vascular Guidelines に続く国際的なガイドライン策定の3人の Steering Committee 委員として本学会から東 信良理事長が参画すること、などが決まった。日本血管外科学会は資金的にも実働的にも世界の血管外科を欧米と共に牽引していくこととなった。

終わりに

日本血管外科学会の国際活動について、非常に活発な内容が取り纏められ、特に若手が海外でのびのび活動している様子が光輝いて見てとれる内容が改めて示された報告書となりました。海外に渡航し、学会発表する若手がこの数年で各段に増え、学会発表だけでなく、海外血管外科医との交流や海外における日本からの発表者同士の交流が大変な盛り上がりを見せ、お互いに刺激し合う姿は、私どもの世代にはなかったもので、隔世の感があります。また、率先して海外に飛び出し、国際活動に挑戦している先輩たちを見て、さらに若い世代が海外を目指して、アカデミックな活動に力を入れる好循環が生まれつつあることは、日本の血管外科学会全体にとって明るい未来を映しだしているように見えます。欧米からはもとより、それ以外のこれまであまりお付き合いのなかった国々からも、日本血管外科学会への講演依頼が急増していることから、我々日本の血管外科医に対する海外からの評価が年々上向いていることを示しているように思われます。

円安、働き方改革、外科医の成り手不足など、種々厳しい環境の中においてではありますが、逆に明るい将来像への変化を知ることができ大変嬉しく思うとともに、血管外科医への期待と応援が増えて、こうした好循環が継続していくことを心から祈るばかりであります。

日本血管外科学会 理事長
旭川医科大学 血管外科
東 信良



日本血管外科学会
Japanese Society for Vascular Surgery